

三体千字文を書く(64)

締切り 四月二十二日(必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

孝當竭力

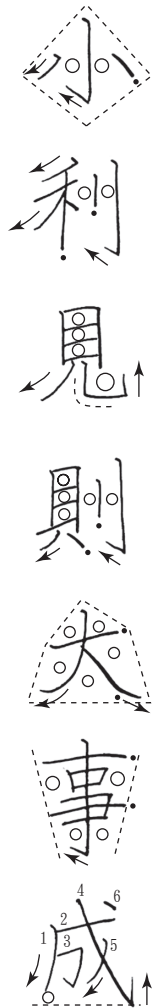
忠則盡命

父母への孝行には、力を尽くし  
主君への忠義には、命をかけて尽くせ。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

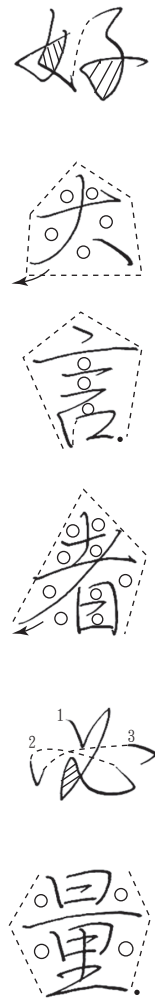
小利を見れば  
則ち大事成らず  
論語 子路篇

尾郷翠光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



必	大	好
ず	言	ん
小	す	で
量	る	
で	者	
あ	は	
る		

古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆5月課題予告(行草または草書)  
己に勝つを賢とし  
己が心に負けて  
悩むを愚とす  
▼教範・書範 行書  
▼師範 楷書

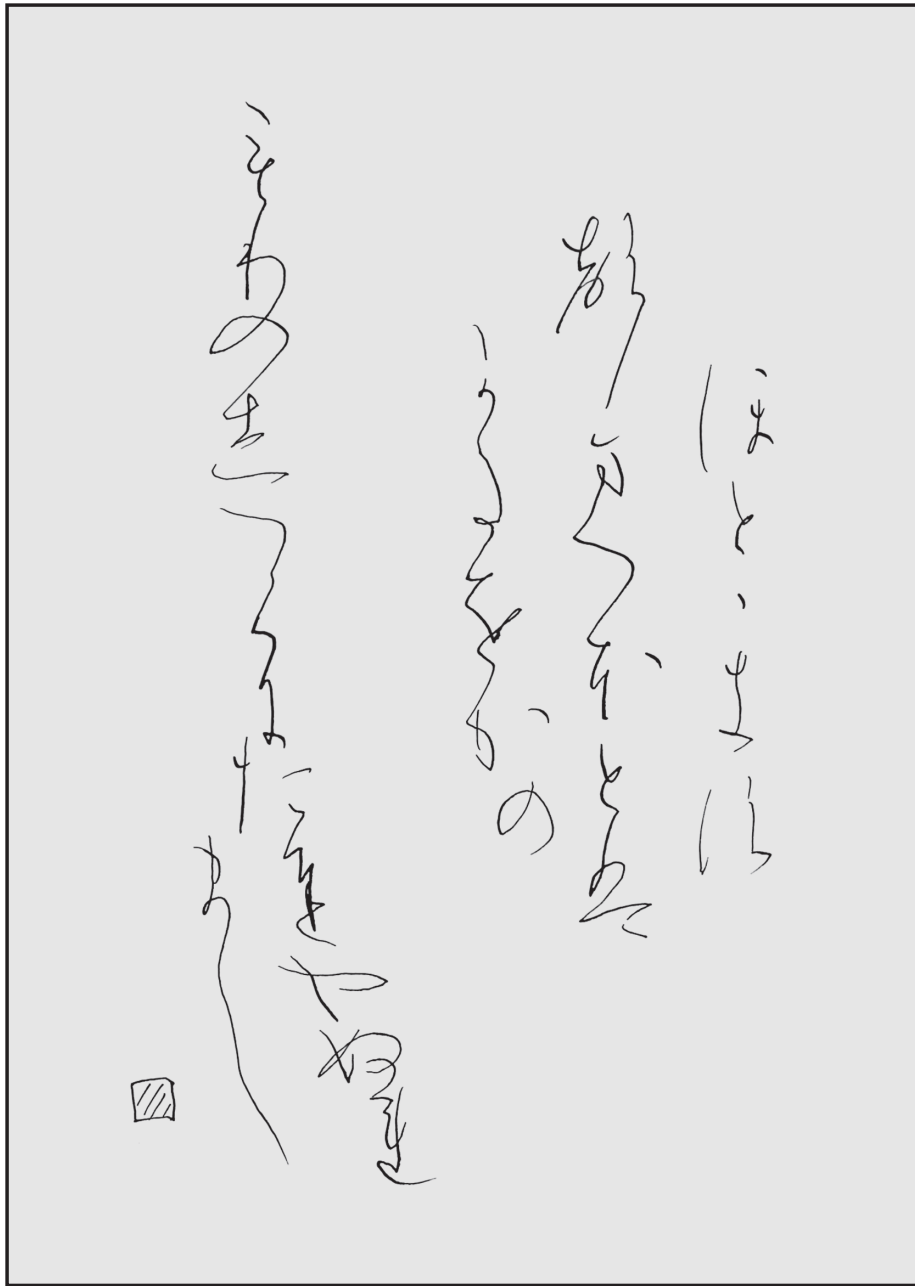
★小利を…(書体 楷書)  
論語 子路篇より  
小さな利益に心奪われてこだわって  
いては、大きな事業は達成できない、  
ということだ。  
孔子の弟子で、孔子より四十四歳も  
年少の子夏が、魯の国のある町の代官  
になったとき、政治の心得を孔子に質  
問しました。その時の孔子の答えがこ  
の言葉です。  
大物といわれる人物の経歴をみる  
と、目先の小さな利益に視点をあてる  
ことなく、将来の大きな利益に目をあ  
てる時期があったようです。

◆5月課題予告(楷書)  
愛の光なき人生は  
無意味である  
シラー  
★好んで…(書体 行書)  
洪応明の著「菜根譚」より  
いつも大ボラを吹いて自慢ばかりし  
ている者は、器量が小さく人の価値が  
低いという意味です。  
ある所に、貧乏で子供好きなおじさ  
んがいました。子供たちにあれを買っ  
てやると言ったら喜ばせては空約束ば  
かりでした。やがて信用もなくなり、子  
供たちは寄りつかなくなりました。  
やがてその人が死んだ時、あのホラ  
吹きおじさんもうとう死んだかと、  
子供たちは少し感傷にひたりましたが、  
それからすぐにその存在を忘れてしま  
いました。



締切り 四月二十二日(必着)

大迫秀湖書



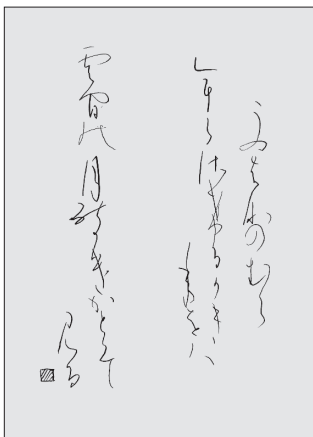
ほととぎす<sup>支須</sup>声<sup>万</sup>待<sup>本</sup>つ<sup>盤</sup>ほ<sup>可</sup>ど<sup>多</sup>は<sup>を</sup>片<sup>か</sup>岡<sup>の</sup>の  
 も<sup>毛</sup>り<sup>利</sup>の<sup>志</sup>し<sup>志</sup>づ<sup>志</sup>く<sup>志</sup>に<sup>志</sup>立<sup>志</sup>ち<sup>志</sup>や<sup>志</sup>ぬ<sup>志</sup>れ<sup>志</sup>まし<sup>志</sup>

〔歌意〕 ほととぎすの鳴く声を待つ間、片岡の御社の杜に立ちつくして、木々の雫にぬれましょか。  
 〔出典〕 新古今和歌集(新潮日本古典集成)

〔古筆参考〕

支<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>よ<sup>よ</sup>  
 須<sup>す</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>  
 盤<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>  
 毛<sup>も</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>  
 利<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>  
 尔<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>  
 遅<sup>ち</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>  
 連<sup>れ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>

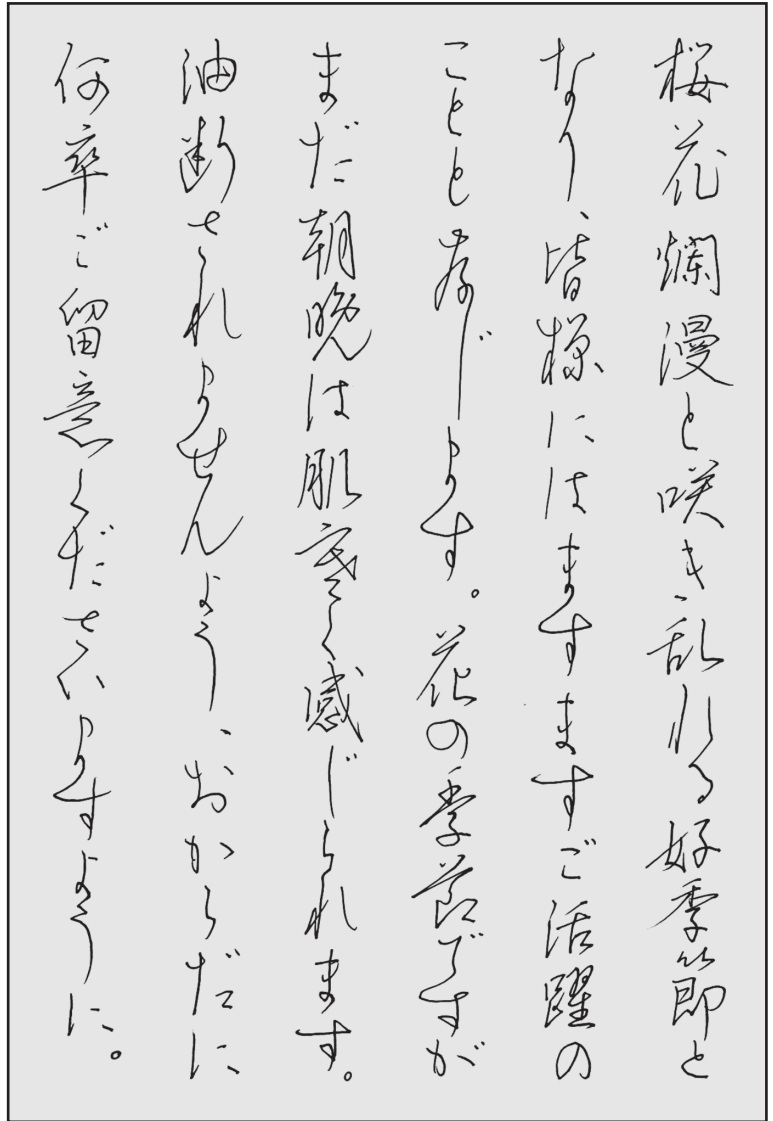
◆5月課題予告



卯<sup>う</sup>の花<sup>の</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>咲<sup>咲</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>垣<sup>垣</sup>根<sup>根</sup>を<sup>を</sup>ば  
 雲<sup>くも</sup>間<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>月<sup>つき</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>げ<sup>げ</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>見<sup>見</sup>る<sup>る</sup>

締切り 4月22日(必着)

桜花爛漫と咲き乱れる好季節となり、皆様にはますますご活躍のことと存じます。花の季節ですがまだ朝晩は肌寒く感じられます。油断されませんよう、おからだに何卒ご留意くださいますように。



※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

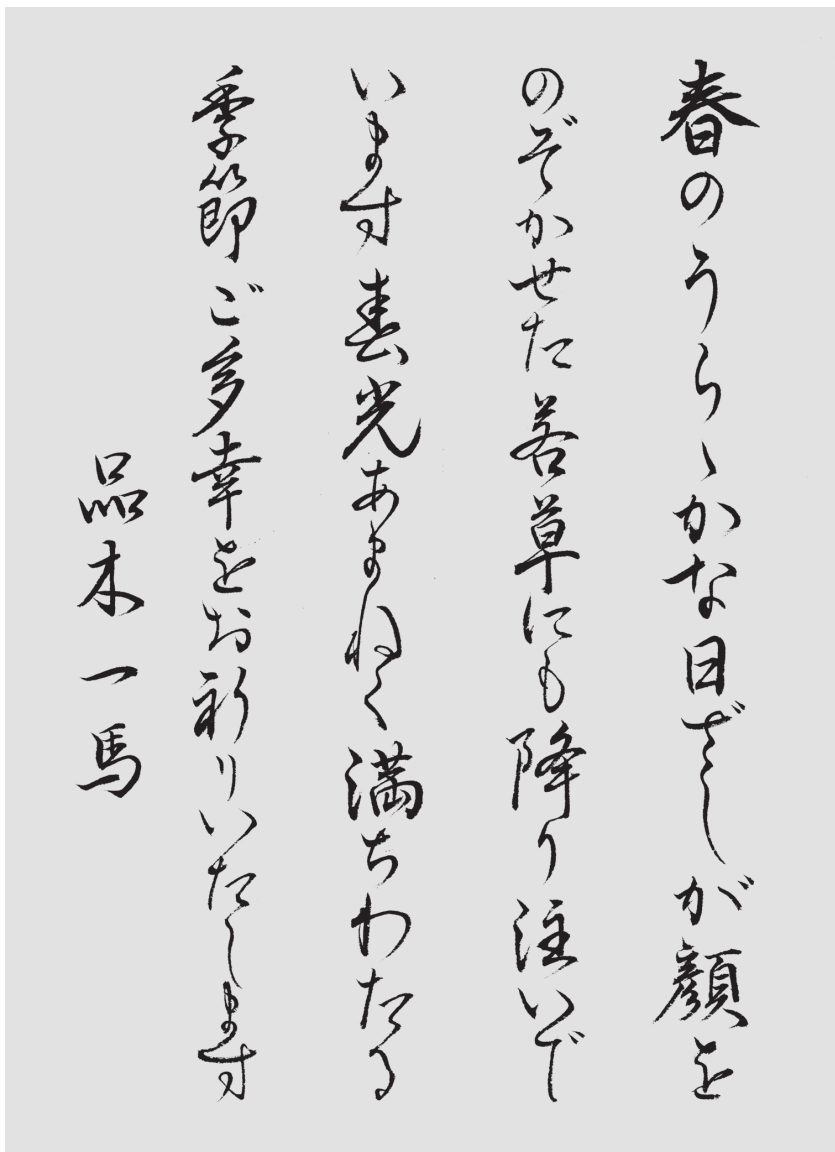
横書き課題

日本の伝書鳩は、明治年間に陸軍  
 が欧州より輸入したのが始まり。  
 京都府伏見区 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

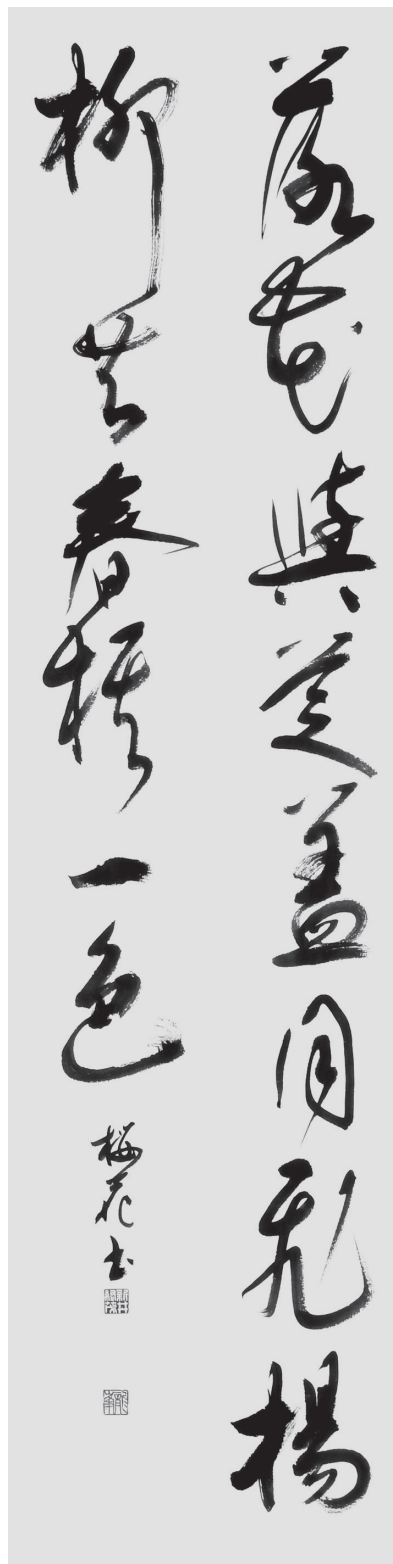
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

伊藤 香梅 書



締切り 四月二十二日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

新井 龍峰 書

落花與芝蓋同飛

楊柳共春旗一色

庚信

〔大意〕落花は小さい蓋(きぬがさ)と共に飛び、青々とした柳は酒屋ののぼりの色と同じである。  
初出品の方へ  
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕

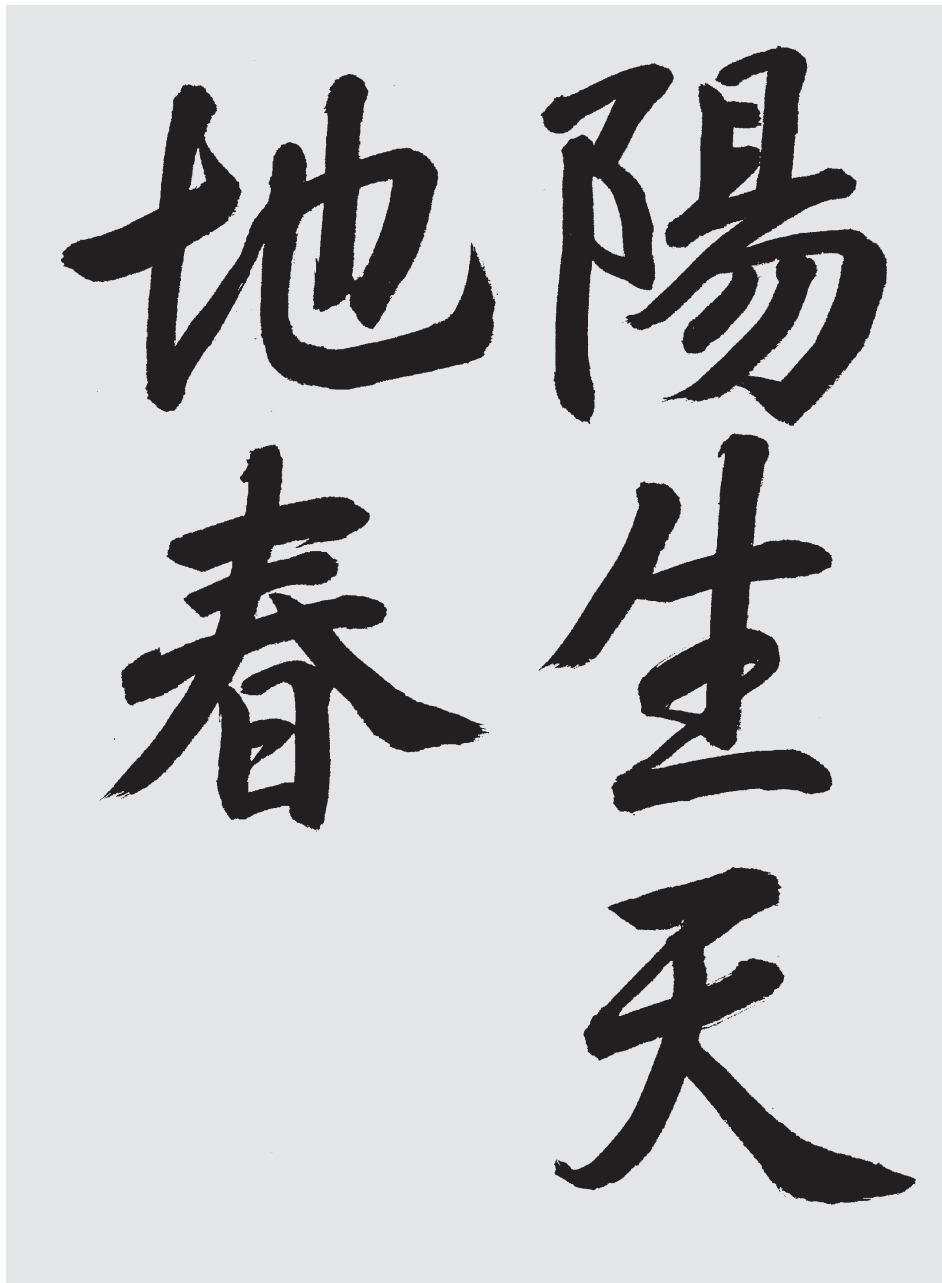
筆と硯は使い終えたらすぐに洗う習慣を身につけましょう。この時期は水も冷たく、どうしても後まわしになりがちですが、すぐに洗えば余分な墨も早く落ちます。時間が経てば経つほど墨の汚れも落ちづらくなります。特に硯の面の細かな溝に入った墨を放置すると、墨が磨れなくなってしまうからです。

- ・春のうららかな日ざしが顔をのぞかせた若草にも降り注いでいます 春光あまねく満ちわたる
- ・季節 ご多幸をお祈りいたします (ご自分の氏名)
- ・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)



清水翠芳書

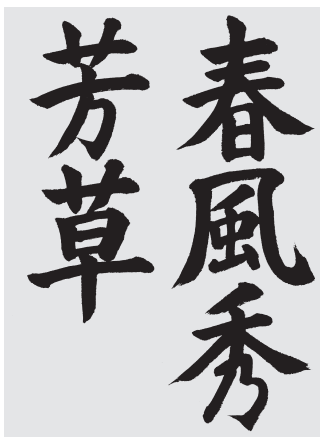
陽生天地春

〔大意〕陽氣が初めて生じて天地のよき春となった。

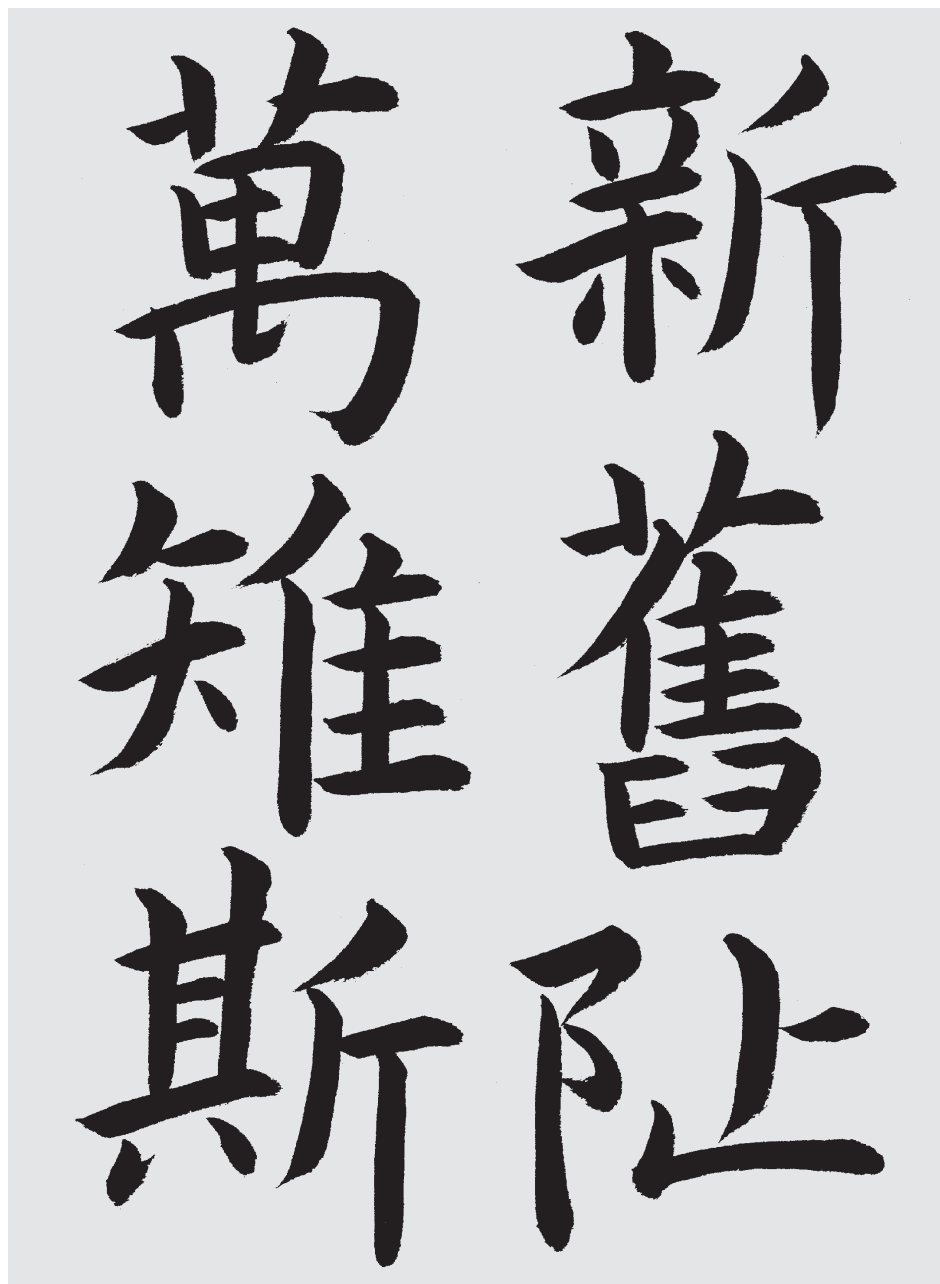
〔解説〕



◆5月課題予告(楷書)

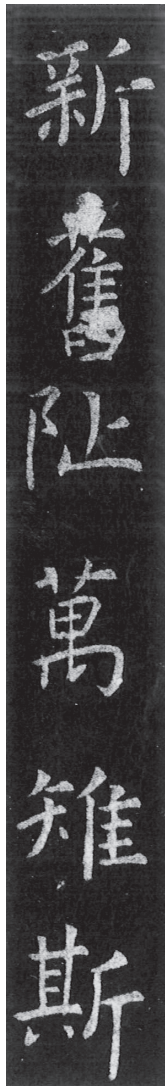


準初段から師範まで



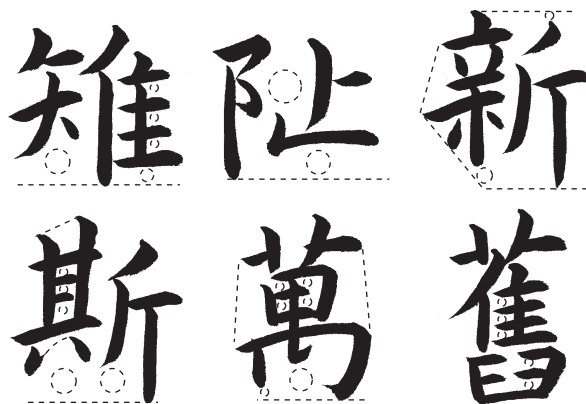
須田 一葉 臨

新  
(舊) 旧  
隄  
万  
雉  
斯

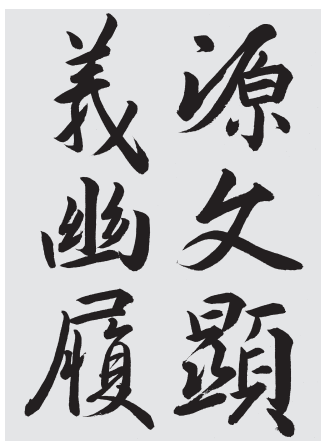


〔出典〕孔子廟堂碑(六二六〜六三三)  
 〔筆者〕虞世南(五五八〜六三八)  
 〔読み〕(惟ち) 旧隄を新たにす。万  
 雉斯に(建ち)

〔解説〕

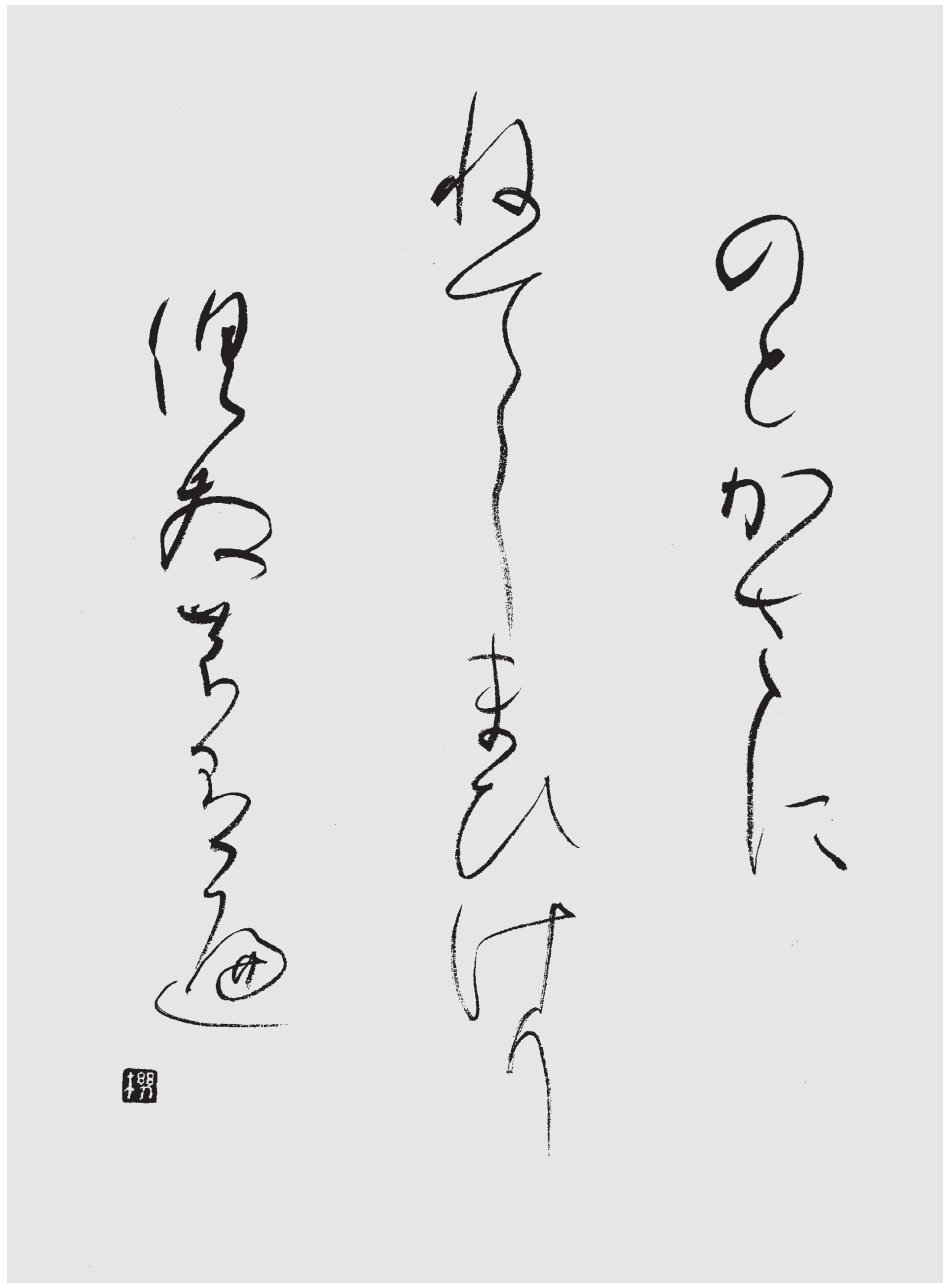


◆5月課題予告  
 ※文献によって字体が異なる場合があります。



新入から1級まで

浅井機山先生書



のどかさに寝てしまひけり草の上

松根東洋城

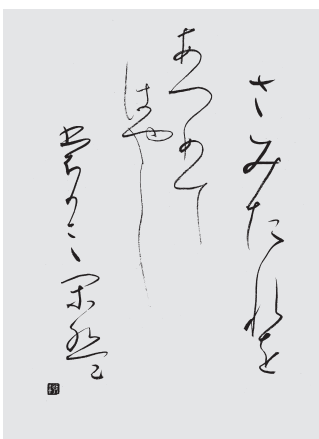
〔句意〕

摘草をしようと野に來たのであったが、あまりののどかさに草の上に寝てしまつたというのである。万葉の歌の情趣の如くおおらかな句。

〔古筆参考〕

俱く 寝 寝 何 何  
散き 散 お 友 友  
農の 若 若 若 若  
有う 有 有 有 有  
遍へ 遍 遍 遍 遍

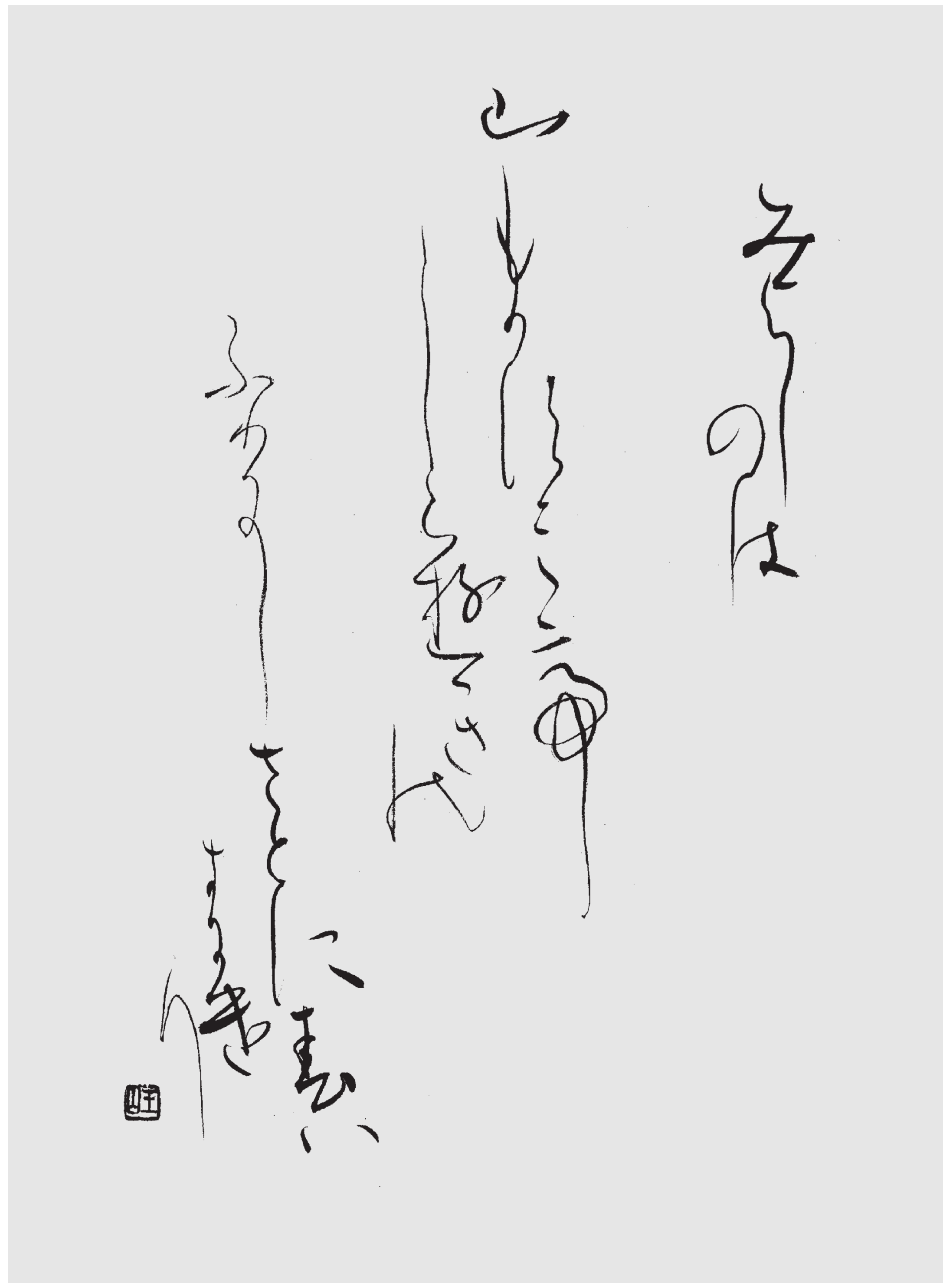
◆5月課題予告



五月雨をあつめて早し最上川

準初段から師範まで

浅井機山先生書



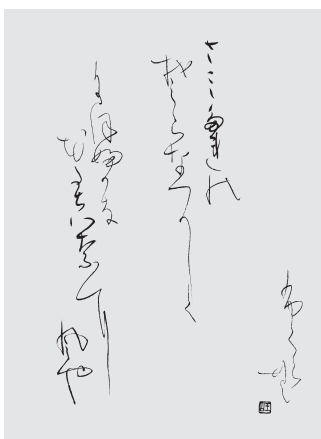
与しの  
み吉野は山も霞みて白雪の  
可須三帝しら遊き能  
利尔  
ふりにし里に春は来にけり  
さと  
八支尔遣  
藤原良経  
ふじわらのよしね

〔歌意〕 吉野は、山も春の訪れの霞がかかり、白雪の降っていたこの故里にも、今日は春が来たことであるよ。

〔古筆参考〕

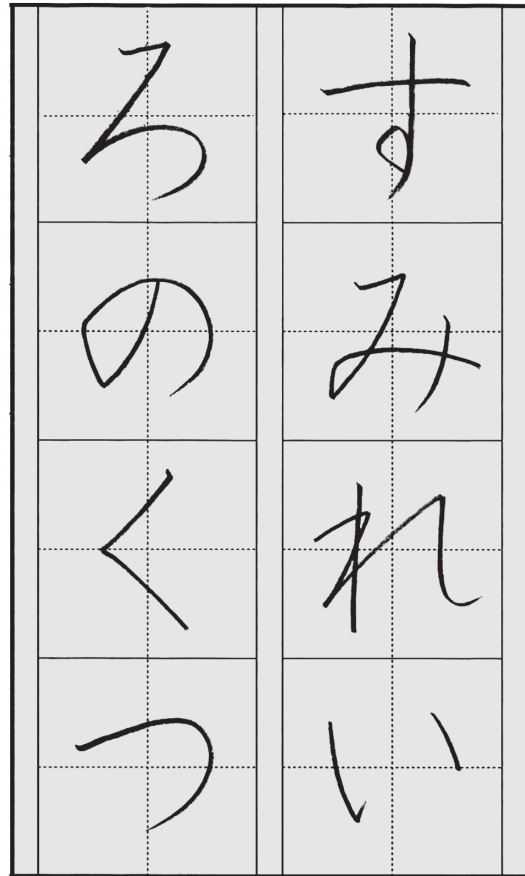
須<sup>+</sup> 頃 頃 頃 頃  
遊<sup>ゆ</sup> 遊 遊 遊 遊  
能<sup>の</sup> 能 能 能 能  
尔<sup>に</sup> 尔 尔 尔 尔  
遣<sup>け</sup> 遣 遣 遣 遣

◆5月課題予告



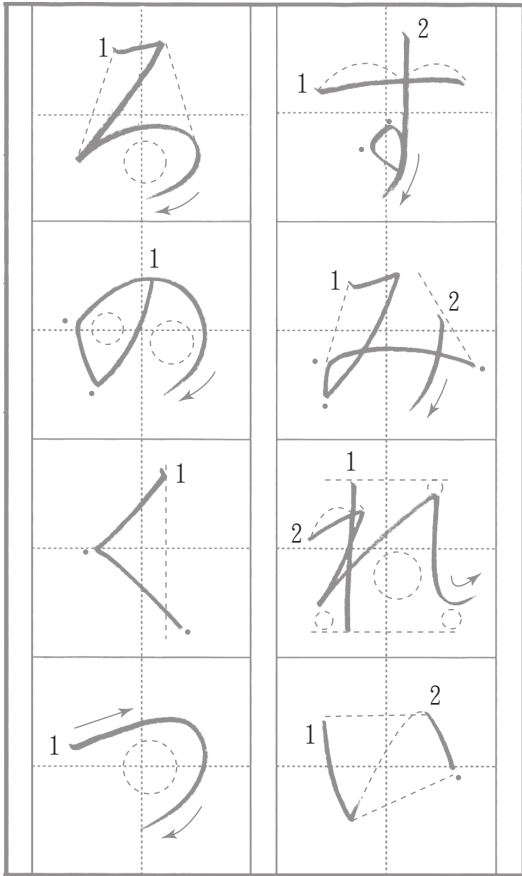
さみだれ  
五月雨の空なつかしく匂ふかな  
はなたちばな  
花橘に風や吹くらむ

よ  
う  
年



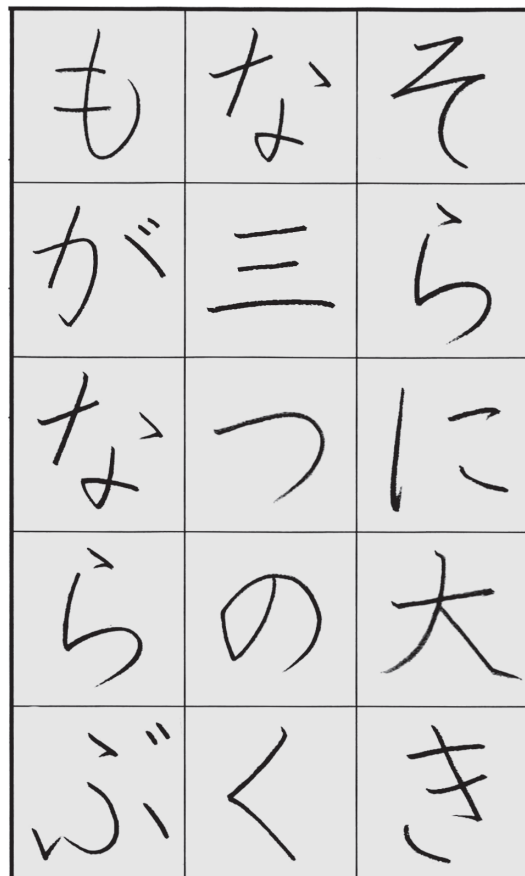
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

新  
小  
一  
年

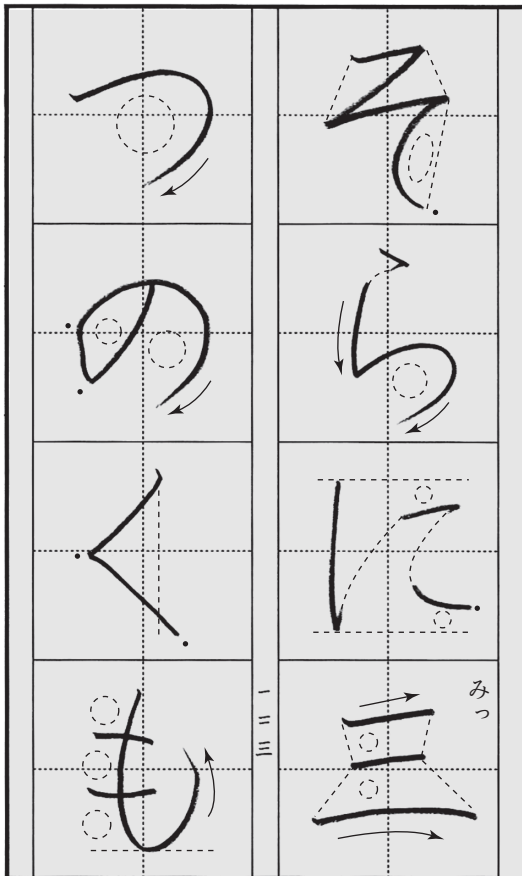


※<sup>みつ</sup>三つ || 単語としてこのように読みます。

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

準  
初  
段  
以  
上



幼年〜小三年まで  
三<sup>み</sup>宅<sup>やけ</sup>容<sup>よう</sup>玉<sup>ぎよく</sup>書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

コウ	広
ヨウ	用
シ	紙
	に

新入〜1級

紙	ら	広
に	を	こ
つ	メ	く
か	モ	の
う	用	う

新小二年  
準初段以上

かわ	川
ぎし	岸
とり	鳥
ニ	二

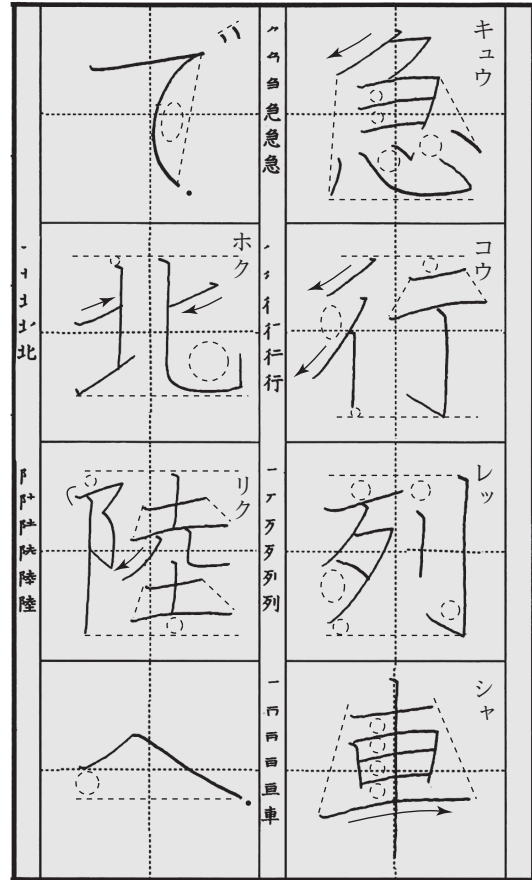
新入〜1級

び	の	川
を	鳥	岸
し	が	で
て	水	二
る	あ	羽

新小三年  
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新小四年



(全員)

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- \* 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- \* 六月締切り分までは、この方法が続けます。
- \* ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。
- \* 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

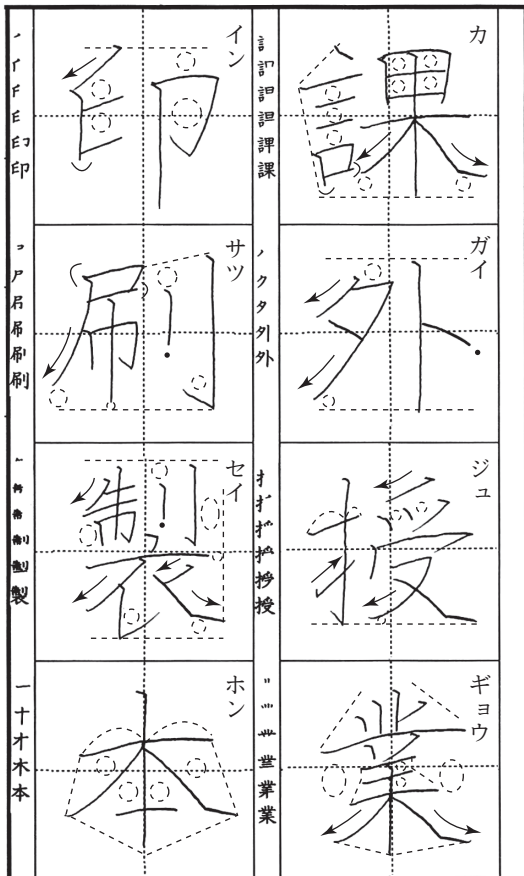
新小五年



(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)



小四年以上  
前 堀 玉 華 書

〈用具 自由(黒色に限る)〉

チ 地	一 昔 昔	むかし 昔
シ 資	ノ 近 近	ちか(く) 近
ゲン 源	多 鉦 鉦	コウ 鉦
と(る) 採	一 山 山	ザン 採

解説(よく見て習いましょう)

源	山	昔
が	で	近
採	地	く
れ	下	の
た	資	鉦

新小六年

(全員)

取	い	健
り	五	康
入	穀	を
れ	米	気
た	を	遣

新中二・三年

(行書)

の	作	新
目	つ	鮮
玉	た	な
焼	半	卵
き	熟	で

新中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 くま がい か よ 熊 谷 佳 代 書

校 <small>こう</small>	大 <small>おお</small>	元 <small>げん</small>	追 <small>お</small>	青 <small>あお</small>
庭 <small>てい</small>	き	気 <small>き</small>	い	い
に	な	に	か	ボ
ひ	声 <small>こえ</small>	遊 <small>あそ</small>	け	ー
び	が	ぶ		ル
く				を

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 4月22日(必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 いし かわ みな よ 石 河 美奈世 書

家 <small>いえ</small>	友 <small>とも</small>	並 <small>なみ</small>	ひ	桜 <small>さくら</small>
路 <small>じ</small>	達 <small>たち</small>	木 <small>き</small>	ら	の
に	と	道 <small>みち</small>	ひ	花 <small>はな</small>
つ	歩 <small>ある</small>	を	ら	び
く	き		と	ら
	な		舞 <small>ま</small>	が
	が		う	
	ら			

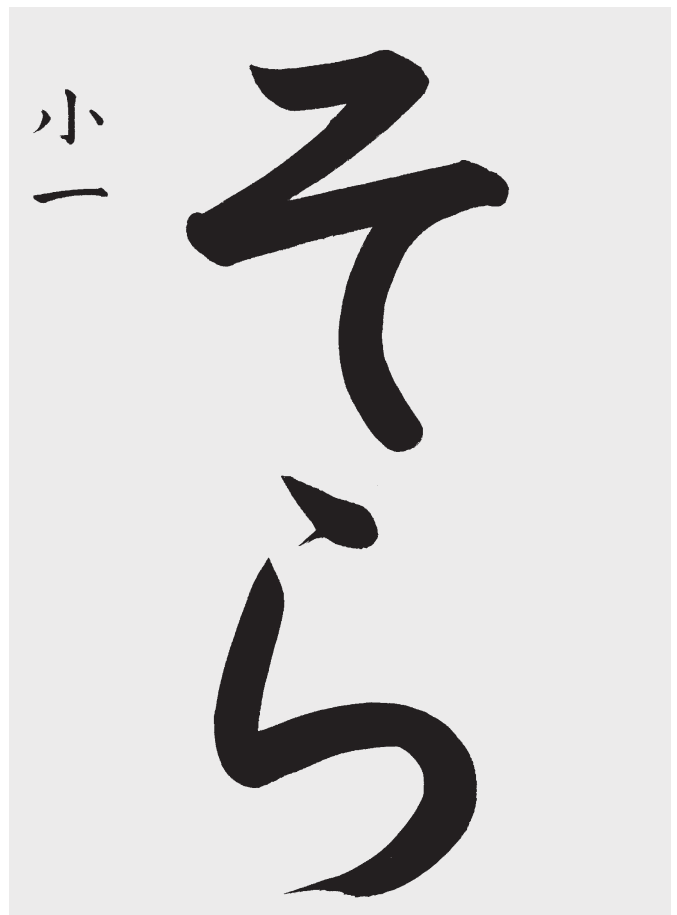
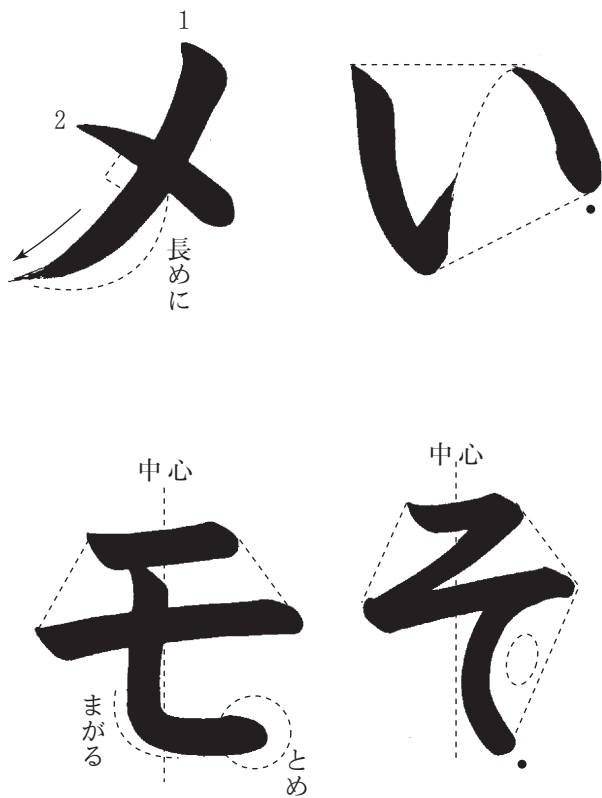
◎お手本はつけペン使用

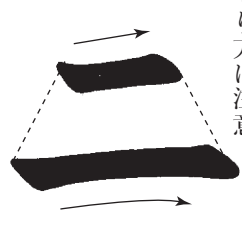
◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年〜新小二年  
酒井智仔書





そり方に注意



右側を大きめに



新小三〜新小五年

柴しば田た桃とう花か書

中二・三

五穀

小六

鉾山

新小六〜新中二・三年

永谷恵子書

熟

鉾

五

山

穀

半

中心よりやや右に

中一

半熟

※行書では画のつながりに注意しよう。